

まち・ひと・しごと創生

第2期小浜市総合戦略

有識者会議 令和6年度評価結果



令和7年8月

経営企画部 未来創造課

1 評価について

令和3年度から令和7年度を計画期間とする「まち・ひと・しごと創生 第2期小浜市総合戦略（以下、第2期小浜市総合戦略）」は、第6次小浜市総合計画内における人口減少対策について、重点的・優先的に進める政策・施策を取りまとめたものです。

計画では、3つの基本目標に基づく各取組みに対し、令和7年度を目標とした重要業績評価指標（K P I¹）を設定しており、毎年度の進捗状況を翌年度に評価し、目標や指標の達成に向けた事業推進につなげていくこととしています。

2 評価基準について

評価シートにおける評価基準は「第2期小浜市総合戦略」で定めたK P Iに対しての令和6年度の到達状況を以下のとおり4段階（A～D）で示しています。

- A…令和6年度の目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）
- B…令和6年度の目標値に到達していないが、基準値より数値が上昇（順調）
- C…基準値と数値が同一（停滞）
- D…基準値より数値が下降（縮小）

3 令和6年度K P Iの達成状況について

「第2期小浜市総合戦略」で設定した重要業績評価指標（K P I）全18項目について、令和7年3月末を基準日として調査しました。

戦略策定時の基準値から数値の推移について、達成段階によりA～Dの記号で判定した結果、A判定（令和6年度の目標値に到達し、基準値より数値が上昇）が38.9%、B判定（基準値より数値が上昇）が27.8%、合計で66.7%の項目が目標達成に向けて推移する一方、D判定（基準値より数値が下降）の項目が22.3%となりました。

判定記号	項目数	構成比	参考（R5年度評価構成比）
A（達成）	7	38.9%	38.9%
B（順調）	5	27.8%	27.8%
C（停滞）	1	5.5%	5.5%
D（縮小）	4	22.3%	27.8%
測定不能	1	5.5%	0%

¹K P I（重要業績評価指標）…Key Performance Indicatorsの略。事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標

4 評価結果の一覧

基本目標ごとのK P Iの評価結果一覧については、以下に掲載のとおりです。

【まち・ひと・しごと創生 小浜市総合戦略 令和6年度評価結果一覧表】

基本目標1 「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち

No.	重要業績評価指標 (K P I)	基準値	(参考値) R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R7 目標値	評価
基本的方向①安心して、子どもを産み育てられる環境づくり							
1	地域子育て支援拠点 事業 実施施設数	3 箇所 (R元年度)	5 箇所	7 箇所	5 箇所	7 箇所	B
2	認定こども園への移 行園数	1 園 (R元年度)	3 園	5 園	3 園	5 園 (R元~R7合計)	B
基本的方向②次代を担う子どもを育てる環境づくり							
3	キッチンスタジオ利 用者数	1,092 人 (R2年度)	2,406 人	1,800 人	2,203 人	2,000 人	A
4	(公民館等における) 学級・講座の受講者数	2,800 人 (R元年度)	2,837 人	2,800 人	2,286 人	3,000 人	D
基本的方向③社会の担い手となるひとを増やす環境づくり							
5	お試し体験住宅等を 利用して定住に結び 付いた人数	9 人 (H27~R元合計)	7 人 (3人)	8 人 (2人)	14 人 (7人)	10 人 (R3~R7合計)	A

基本目標2 「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち

No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	(参考値) R5実績値	R6目標値	R6実績値	R7目標値	評価
基本的方向①働きたくなる場と安定した雇用の創出							
6	新規学卒者の地元就職率	73.0% (R元年度)	83.5%	80.0%	80.7%	80.0%	A
7	UIターン就職者の数	133人 (R元年度)	663人 (R5年度174人)	830人	—	970人 (R元～R7合計)	—
8	空き店舗等を活用する事業所数	2件 (R元年度)	10件 (R5年度2件)	17件	13件 (R6年度3件)	20件 (R元～R7合計)	B
基本的方向②地域資源を活かし、新しい技術を取り入れる産業振興							
9	担い手への農地集積率	52.2% (R元年度)	57.3%	80.0%	57.8%	80.0%	B
基本的方向③地域資源を活用した交流人口の増加							
10	観光交流人口	189万人 (R元年度)	130万人	200万人	129万人	204万人	D
11	観光消費額	109億円 (R元年度)	99億円	126億円	95億円	128億円	D
12	教育旅行受入者数	5,935人 (R元年度)	5,185人	6,600人	5,365人	6,600人	D
13	国際交流関係イベントへの参加者数	1,641人 (R元年度)	1,198人	1,900人	1,915人	2,200人	A

基本目標3 「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち

No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	(参考値) R5実績値	R6目標値	R6実績値	R7目標値	評価
基本的方向①安全・安心な暮らしの確保							
14	自主防災組織の結成 団体数	112 団体 (R元年度)	134 団体	147 団体	136 団体	148 団体	B
15	地域防災マップの作 成団体数	0 団体 (R元年度)	20 団体	30 団体	37 団体	50 団体	A
16	防災メール登録者数	1,392 人 (R元年度)	1,972 人	1,800 人	2,160 人	1,900 人	A
基本的方向②心身ともに健康で、いきがいのある生活の実現							
17	ふれあいサロン設置 区数	114 区 (R2年度)	115 区	116 区	116 区	117 区	A
基本的方向③市民一人ひとりが活躍する住み心地の良い地域づくり							
18	市民提案事業件数	9 件 (R元年度)	8 件	11 件	9 件	12 件	C

5 有識者会議における委員からの意見等

令和7年7月23日に開催した「まち・ひと・しごと小浜市総合戦略有識者会議」において意見交換した主な概要は次のとおりです。

指標 No.7 UIターン就職者の数、No.16 防災メール登録者数

- ・公式ラインを活用した情報（移住定住・地元企業の情報、防災情報）発信を計画しているという話があったが、安全性は担保できているか。情報の漏洩や、セキュリティーの脆弱性の部分について、行政としてどう考えているか。

指標 No.8 空き店舗等を活用する事業所数について

- ・空き店舗の活用とともに、商店街ではなく最近、自宅で店を構える方も多い。地元でもバラバラで周知されにくいなどあるので、新規企業のお店のマップなどを支援したらどうか。

指標 No.9 担い手への農地集積率

- ・漁業へは観光と併せた取り組みが盛んにされているが、農業も特産化などに取り組むことで収益アップに繋がり、地元に残り農業の担い手になってもらえるのではないかと。

指標 No.10 観光交流人口について

- ・インバウンドについては、統計が取れているのかという事は気になるが、近年、外国人の小グループの観光客がかなり増えてきているという印象はある。ただ、どういう交通手段で観光地まで来ているのか、どのルートを使ってきたのか等、北陸新幹線で小浜駅まで来て、その後、どういうアクセスをしているのかについて足跡を追えたりすると、面白い展開に繋がると思う。

指標 No.17 ふれあいサロン設置区数

- ・令和3年から実施回数が大幅に上がってきているのは嬉しく思っている。全体的に男性の参加者は少ないが、参加者が多い区に理由を聞いてみると麻雀をされていると聞く。
一方で最近、参加者の中で認知症の方が出てきているというのがすごく気になっている。資金が潤沢であれば、色んな活動を実施でき、刺激になって、また来ていただける方が増えるのではないかと思うが、乏しい資金で運営しているため、いつも同じ所で同じ内容になってしまう。

その他、KPIごとの意見については、別途意見シートでも聴取（評価シート内に記載）。有識者意見については担当課にフィードバックすることで、各地施策に生かしていきます。

6. 評価シート

K P I ごとの評価状況については、評価シート（別冊）のとおりです。

7. 評価結果の公表

総合戦略（K P I 含む）については、達成状況や有識者会議の意見などをもとに、年度ごとの評価を行い、その結果を公表しています。

- ① K P I 等の達成状況の集約（担当課・事務局）
- ② 達成状況および評価の検証、意見集約（有識者会議）
- ③ 評価結果の報告（庁議）
- ④ 評価結果の公表（市公式HP）

小浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員名簿

NO	所属等	氏名
1	福井大学	江川 誠一（議長）
2	小浜市議会	川代 雅和
3	小浜商工会議所	坂下 貴洋
4	小浜市教育委員会	村上 郁子
5	福井県農業協同組合	瀧野 裕久
6	（一社）若狭おばま観光協会	池田 歩
7	小浜市社会福祉協議会	中野 正勝
8	小浜商店街連盟	下仲 直美
9	小浜市民生委員児童委員協議会	古谷 眞知子
10	小浜市PTA連合会	大江 建太
11	若狭青年会議所	濱坂 卓弥
12	小浜公共職業安定所	青柳 光紀
13	小浜市防災士の会	古川 佳宏
14	WACおばま	鳥居 直也 （代理）中畠 阿児
15	浜っ子こども園なかよし会	小西 咲江
16	地域おこし協力隊（元）	相澤 弘美
17	グループマーメイド	大同 スエ子

（敬称略 順不同）

【別冊資料】

まち・ひと・しごと創生

第2期小浜市総合戦略

有識者会議 令和6年度評価結果
(評価シート)

令和7年8月

経営企画部 未来創造課

【基本情報】

K P I	地域子育て支援拠点事業 実施施設数（地域子育て支援拠点事業を行う施設数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
①	基本的方向	安心して、子どもを産み育てられる環境づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	3箇所 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	5箇所	5箇所	A	地域子育て支援拠点の設置を推進し、きめ細かな子育てサービスの提供を行うことにより、地域の子育て支援機能の充実を図っている。	親子の交流や子育て相談・指導等、子育て世帯が参加しやすい環境作りに努める。	
R4年度	5箇所	5箇所	A	新・健康管理センター内に子育て世代包括支援センターや子ども家庭総合支援拠点、一時預かり機能を持った子育て支援センターを設置し、相談窓口の集約化が図れるよう準備を進めた。	新・健康管理センターに移設する子育て支援センターにおいて、親子の交流や子育て相談等、これまで以上に子育て世帯が参加しやすい環境作りに努める。	
R5年度	6箇所	5箇所	B	健康管理センター内に、一時預かり施設を含む子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点を置き、児童等に対する一体的支援を行うことで、相談窓口の集約化を図った。	健康管理センターに移転後も、引き続き、子育て支援センターにおいて、親子の交流や子育て相談等、これまで以上に子育て世帯が参加しやすい環境作りに努める。	令和3年度から増加していないが、目標に向け達成する見込みはあるか。具体的に話が進んでいる施設はあるのか。新健康管理センターが新しく建てられ子育て機能が強化されており、4階の市民交流エリアを含め親子や幅広い世代が交流する場にすることで子育てしやすい環境づくりを目指してほしい。
R6年度	7箇所	5箇所	B	第3期小浜市子ども・子育て支援事業計画(R7～11)を策定し、安心して子どもを生み育てられる環境を整備するため、引き続き、健康管理センターを中心に、子育て世帯が参加しやすい環境作りに努めた。	健康管理センターに移設した子育て支援センターにおいて、親子の交流や子育て相談等、これまで以上に子育て世帯が参加しやすい環境作りに努める。	
R7年度 (目標値)	7箇所					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	認定こども園への移行園数（幼稚園と保育所の機能を併せ持つ認定こども園へ移行する保育園数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
①	基本的方向	安心して、子どもを産み育てられる環境づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	1 園 (R元年度)	—	—	—	—
R 3 年度	3 園	3 園	A	今富そらのとり保育園が、認定こども園そらのとりこども園へ移行した。	保育者のニーズや入園希望に対して受け皿を準備する。	
R 4 年度	3 園	3 園	A	保育園の統廃合・民営化を見据え、未満児の入園希望増等の保育者のニーズに沿った施設整備を検討する。	保育者のニーズや入園希望に対して受け皿を準備する。	
R 5 年度	4 園	3 園	B	未満児の保育需要が高まる中、聖ルカ乳児保育園の新園舎への移転を進めることで、未満児の受入定員増につなげ、受け皿を確保した。	保育者のニーズや入園希望に対して受け皿を準備する。	令和3年度から増加していないが、目標に向け達成する見込みはあるか。具体的に認定こども園への移行に向けて進んでいる園はあるのか。
R 6 年度	5 園	3 園	B	未満児の保育需要が高まる中、聖ルカ乳児保育園が開園し、未満児の受入を確保した。	保育者のニーズや入園希望に対する受け皿の準備、こども園への移行に向けた支援。	
R 7 年度 (目標値)	5 園 (R元年度～R7年度合計)					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

KPI	キッチンスタジオ利用者数（食文化館のキッチンスタジオにて食の体験をした人数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
②	基本的方向	次代を担う子どもを育てる環境づくり

【指標達成状況】

年度	目標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	1,092人 (R2年度)	—	—	—	—
R3年度	1,200人	1,434人	A	生涯食育事業の充実および実施。 義務食育事業の充実および実施。 新たな生活様式に対応した食育の取組み。	利用者が固定化していることが課題となっている。今後は今まで利用が少なかった若い世代等に対して、利用促進の取組みが必要である。	小学生の将来なりたい職業であるパティシエや料理人の体験イベントを地元のフルーツや食材を使って行ってはどうか。
R4年度	1,400人	2,362人	A	生涯食育事業の充実および実施。 義務食育事業の充実および実施。 新たな生活様式に対応した食育の取組み。	SNSを活用した情報発信等の成果により、若い子育て世代の利用が増加した。引き続き、利用促進に向けて、内容の充実や情報の発信に取組む。	
R5年度	1,600人	2,406人	A	生涯食育事業の充実および実施。 義務食育事業の充実および実施。 新たな生活様式に対応した食育の取組み。	学校へのイベントチラシの配布やオンライン予約を開始したことで、若い世代の利用者が増加した。これからも、利用促進の取組みを継続していく。	中学生は部活動の地域移行で土日の部活動が無くなることから、課外活動の選択肢の一つとして中学生向けの講座も考えてほしい。パティシエを目指しているという子どもも良く聞くので。
R6年度	1,800人	2,203人	A	生涯食育事業の充実および実施。 義務食育事業の充実および実施。 新たな生活様式に対応した食育の取組み。	SNS等を通じて広く情報発信をするとともに、市内についても、あらためて、各地区コミュニティセンターや教育機関、各種団体等に対して、利用を呼びかける。また、体験プログラムの幅を広げる等受入側のスキル向上に努める。	シニア向けの料理教室についてニーズはないのか。
R7年度 (目標値)	2,000人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	学級・講座の受講者数（公民館等で開催した各種学級・講座の受講者数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
②	基本的方向	次代を担う子どもを育てる環境づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	2,800人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	2,200人	2,223人	D	公民館などの社会教育施設を拠点として、地域の素材や人材などを活用し、住民一人一人が思いを寄せて地域学習活動に取り組める講座等を企画、実施。世代間交流、青年学級、高齢者学級等。	コロナ禍においても、より充実した教室・講座を実施するため、他団体との連携を強化する。	
R4年度	2,400人	2,743人	D	コミュニティセンターなどの社会教育施設を拠点として、地域の素材や人材などを活用し、地域学習に取り組める講座等を企画、実施。世代間交流、青年学級、高齢者学級等。	他団体と連携しながら、各世代のニーズに合わせた教室・講座を実施していく。	世代間交流や地域学習などを通して育てることで、地域を見直し、小浜市に残ってくれる子どもたちも増えると思う。子どもたちが色々な経験をできる機会を設けていただきたい。講座の中で、青少年育成や環境問題までできると素晴らしいと思う。
R5年度	2,600人	2,837人	A	コミュニティセンターなどの社会教育施設を拠点として、地域の素材や人材などを活用し、地域学習に取り組める講座等を企画、実施。世代間交流、青年学級、高齢者学級、料理教室等。	教室・講座について広く周知し、ニーズに合わせた内容で開催することにより、市民の生涯学習の機会の充実を図る。	コミュニティセンター移行後も講座数は増えてきていると話もあったが、各コミュニティセンターで講座数が減らないよう維持して欲しいと思う。講座数が減ると生涯学習を学ぶ機会が減るので。
R6年度	2,800人	2,286人	D	成人大学講座の他、コミュニティセンターなどの社会教育施設を拠点として、地域の素材や人材などを活用し、地域学習に取り組める講座等を企画、実施。世代間交流、青年学級、高齢者学級等。	教室・講座について広く周知し、ニーズに合わせた内容で開催することにより、市民の生涯学習の機会の充実を図る。	コミュニティセンターでの学級・講座の受講者数が「次世代の子どもを育てる環境づくり」の指標とするのであれば参加者の年齢などを示す数字でなければ分かりにくいのではないか。
R7年度 (目標値)	3,000人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	お試し体験住宅等を利用して定住に結び付いた人数（お試し体験住宅等の利用者のうち、本市への定住に結び付いた人数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
③	基本的方向	社会の担い手となるひとを増やす環境づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	9人 (H27年度~R元年度合計) 年平均1.8人	—	—	—	—
R3年度	2人	4人	A	お試し体験住宅の整備や、移住者向けのサイトでの情報発信を行った。各まちづくり協議会に対し、就業環境を含めた移住者を受け入れる体制づくりをしてもらうよう働きかけている。	コロナ禍で事業を推進するために、柔軟な受け入れ体制やオンラインの活用などが必要である。	基準値と目標値がそれぞれ5年間の合計値となっており、単年度ごとの評価をする際の比較がしにくい。
R4年度	2人	0人	D	お試し体験住宅の整備や、移住者向けのサイトでの情報発信を行った。各まちづくり協議会に対し、移住者を受け入れる体制づくりをしてもらうよう働きかけている。	お試し体験住宅の確保、地域における受け入れ体制の整備を行う。学生連携事業の継続的な受け入れと地域内の事業理解の推進を図る。	
R5年度	2人	3人	A	お試し体験住宅の整備や、移住者向けのサイトでの情報発信を行い、地区のまちづくり協議会などと連携し、外部人材の積極的な受け入れを促した。	全国型移住支援金の導入および創業や結婚新生活など、それ以外の取り組みも併せて周知を図る。学生連携事業の継続的な受け入れと地域内の理解の推進	お試し体験住宅を利用してきた方と話をする機会もあるが、市役所の人からもらった資料以外の情報（スーパーやお土産等）を知りたいという意見も多い。今後、お試し体験住宅を利用した人に、生活に密着した資料を渡すと移住しやすくなるのでは。また、移住サポーターの活用も検討して欲しい。
R6年度	2人	7人	A	お試し体験住宅の整備や、移住者向けのサイトでの情報発信を行った。また、移住支援金等の支援金制度の周知を図り、移住者の増加に努めた。	移住支援金制度や結婚支援金制度だけでなく、その他関連する支援や取り組みも併せて周知を図る。また、移住に対する地域内の理解推進を図る。	
R7年度 (目標値)	10人 (R3年度~R7年度合計) 年平均2人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	新規学卒者の地元就職率（新規学卒者のうち地元就職した者の割合）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
①	基本的方向	働きたくなる場と安定した雇用の創出

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	73.0% (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	80.0%	79.6%	B	地元就職率向上のために、ふるさと仕事塾などのキャリア教育事業を実施し、市内企業の認知度向上や子どもたちの職業観醸成につなげる。	就業、創業など、年代やニーズによる多様な働き方に対応した事業内容を検討する。	より具体的なふるさと探求学習（例えば、地域おこし協力隊、市が活躍を期待する分野の専門家などの講演や体験活動など）が、子どもたちの成長や達成感、さらにはキャリア学習となり、地元に残る動機づけにならないかと思う。高校生の就職率は高いかもしれないが、就職後すぐに辞めてしまうという話をよく聞く。就職率だけでなく、離職率も大事だと思う。それを防ぐ環境づくりができないだろうか。
R4年度	80.0%	83.6%	A	地元就職率向上のために、ふるさと仕事塾などのキャリア教育事業を実施し、市内企業の認知度向上や子どもたちの職業観醸成につなげる。	就業、創業など、年代やニーズによる多様な働き方に対応した事業内容を検討する。 都会の企業には無い地元企業ならではの強み・魅力を伝える。	地元企業の良さを知ってもらってから就職してもらうことが必要。小浜市もふるさと仕事塾など色々なことをやっている。地元の企業の魅力を、中学生から高校生の進路を決めるまでの間に伝えて、選択肢として地元に戻ってくる意識を持ったまま出て行ってもらうことが重要だと思う。
R5年度	80.0%	83.5%	A	地元就職率向上のために、キャリア教育を推進し、市内企業の認知度向上のため学生と市内企業とのマッチング機会を創出し、雇用のミスマッチを減らす。	就業、創業など、年代やニーズによる多様な働き方に対応した事業内容を検討する。 関係機関と連携してマッチング機会の創出に取り組んでいく	新規学卒者の地元就職者数の男女比は男性65%、女性35%と説明があったが、男女比の差があるのは心配であるし、女性が少ないというのは自分の身の回りでも感じている。男女比のアンバランスを解消できるように、女性の視点をもった施策を考えて欲しい。親世代についても小浜で就職するメリットなどの意識醸成や情報共有を図ることが必要だと思う。
R6年度	80.0%	80.7%	A	地元就職率向上のため、中学生の探究活動等キャリア教育を推進し、地元企業の情報を届けるため、学生と市内企業とのマッチング機会を創出し、雇用のミスマッチを減らす。	就業、創業など、年代やニーズによる多様な働き方に対応した事業内容を検討する。 企業と学生による丁寧なマッチング活動を念頭に、関係機関と連携を図る。	周辺の市町を含む地元就職した人たちが8割ということだが、市内には未婚男性が多い。男女比も重要であり、女性に選んでもらえることが大切ではないか。
R7年度 (目標値)	80.0%					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

KPI	UIターン就職者の数（UIターン者のうち地元就職した人数）（延べ数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
①	基本的方向	働きたくなる場と安定した雇用の創出

【指標達成状況】

年度	目標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	133人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	410人	355人 (R3年度133人)	C	企業誘致活動の推進。 サテライトオフィス誘致に向けた体制整備。 学生や保護者への市内企業の情報発信。	若者や女性を惹きつける企業を誘致することで、UIターン者などの働き手の確保を目指す。	県外、市外へ学業や就職のために出た人が戻ってきやすい職業や産業、雇用をどのように整えていくのかについて、何か計画はあるのか。 若者や女性を惹きつける企業誘致を目指すということだが、現在小浜にある企業が若者や女性を惹きつけられるようになる施策はないのか。女性が働きやすい設備が整っていない企業もあるように思う。
R4年度	550人	489人 (R4年度134人)	B	新たな企業の進出を推進する。 サテライトオフィス誘致に向けた体制整備。 学生や保護者への市内企業の情報発信。	サテライトオフィスを採用している企業を誘致しUIターン者などの働き手を確保する。 今後の企業誘致に向けた方針の検討。	小浜市は他のところに比べて家賃が高いように感じる。1人暮らしの若者に優しくない。例えば、U・Iターン者への手当てとして家賃補助を充実させてはどうか。
R5年度	690人	663人 (R5年度174人)	B	小浜市の魅力を生かした企業誘致活動の推進(サテライトオフィス含) 企業とのマッチング機会創出を図るため若狭東高校において企業研究会の実施。	企業誘致戦略の策定、企業振興助成金の見直し、企業とのマッチング機会の創出、新卒者やU・Iターン者などの人材確保	
R6年度	830人	—	—	小浜市企業誘致戦略に基づく県営産業団地への企業誘致、市内の地域資源、空き家、空き店舗などの活用。大学生等を対象とした合同企業説明会、高校生を対象とした「OBAMA ジョブフェス」の実施	企業誘致戦略に基づく企業誘致の推進、企業振興助成金の見直し、企業とのマッチング機会の創出、新卒者やU・Iターン者などの人材確保。	
R7年度 (目標値)	970人 (R元年度～R7年度合計)					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	空き店舗等を活用する事業所数（空き家や空き店舗を活用して起業・事業を行った件数）（延べ数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
①	基本的方向	働きたくなる場と安定した雇用の創出

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	2件 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	7件	6件 (R3年度2件)	C	主に中心市街地における賑わい創出のための空き家・空き店舗を活用した創業支援の実施。	創業支援関係制度の整理。 分散している創業相談窓口を商工会議所へ集約し、相談・支援含めたワンストップ化 継続的な支援のための財源の確保。	
R4年度	10件	8件 (R4年度2件)	C	多様化する創業ニーズに応じた創業支援制度の創設・実施	創業後のフォローアップ体制の構築。 継続的な支援のための財源の確保を行うとともに、情報発信に努める。	
R5年度	14件	10件 (R5年度2件)	C	多様化する創業ニーズに応じた創業支援の実施	創業後のフォローアップ体制の構築。(新規創業者情報の発信など) 創業希望者が必要とする情報の収集、発信。	創業された後の具体的なフォローアップ体制はどうか。 創業の補助金もあると思うが、補助金を活用された方が創業してどうだったか、この補助があつて良かったのか、他にもこのような事に困っている等の意見をくみ上げ反映することで、この補助金を活用する人が増えると思う
R6年度	17件	13件 (R6年度3件)	B	小浜市企業誘致戦略に基づいた創業支援の策定	小浜市企業誘致戦略に基づいたまち歩きエリアの絞り込み 若者、女性への重点的な支援充実	空き店舗の活用とともに、商店街ではなく最近、自宅で店を構える方も多い。地元でもバラバラで周知されにくいなどあるので、新規企業のお店のマップなどを支援したらどうか。
R7年度 (目標値)	20件 (R元年度～R7年度合計)					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	担い手への農地集積率（農地面積のうち、担い手の農地が占める割合）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
②	基本的方向	地域資源を活かし、新しい技術を取り入れる産業振興

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	52.2% (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	70.3%	55.8%	B	人・農地プランの作成、農地中間管理事業の活用、中心経営体の設立・法人化支援。 各経営体の経営計画・投資計画の策定と実行支援、多面的機能支払交付金の活動組織の体制強化支援。土地改良事業の推進。就農希望者の募集	山間部は遊休化した農地が多く集積が進んでいない。耕作条件が特に悪いため、担い手が生まれにくく課題となっている。	高齢化の問題があり、農業の後継者が育っていない。将来性のあるような農政を考えてほしい。近隣では観光農園が増えているので、検討をしてもよいのではないかな。
R4年度	75.1%	56.7%	B	農地中間管理事業の活用、中心経営体の設立・法人化支援。 将来性のある農業経営ができるよう各経営体の経営計画・投資計画の策定と実行支援、多面的機能支払交付金の活動組織の体制強化支援。 土地改良事業の推進。就農希望者の募集・育成。	高齢化による担い手不足が課題となっている。 担い手を中心に話し合いを通じた地域計画策定が将来性のある農業へとつながるため、取り組みを確実にやっていく。 観光農園を含めた新たな営農形態についても模索していく。	「地域資源を活かし、新しい技術を取り入れる産業振興」とあるが、農業の持続性で考えるのなら、お米作るだけではなくて野菜とか単価の高いものに切り替えていくようなことも必要ではないか。質を高める、あるいは単価を高めるといったところでスマート化も必要だと思う。やり方によっては、まだまだ伸びるところだと思うので、商工とか色々な一次産業と結びついていければよい。
R5年度	80%	57.3%	B	農地中間管理事業の活用。 将来性のある農業経営ができるよう各経営体の経営計画・投資計画の策定と実行支援 土地改良事業の推進。就農希望者の募集・育成。	山間部は遊休化した農地が多く集積が進んでいない。耕作条件が特に悪いため、担い手が生まれにくく課題となっている。 また、高齢化による担い手不足が課題となっている	山間部は耕作条件が悪く、担い手も高齢化しがちである。 山間部であることを利用し、「山奥の冷たい清らかな水で作った特別なお米」のような価値を付け、他の米より価値を上げていかないと耕作条件を補うのは難しいのではないかな。
R6年度	80%	57.8%	B	農地中間管理事業の活用。 地域内の将来の農地利用について定めた地域計画の策定 土地改良事業の推進。就農希望者の募集・育成。	山間部は遊休化した農地が多く集積が進んでいない。耕作条件が特に悪いため、担い手が生まれにくく課題となっている。	農業分野で特産品化などに取り組むことで、収益アップに繋がり、ひいては地元に残り農業の担い手となる人が増えるのではないかな。
R7年度 (目標値)	80%					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	観光交流人口（市内の観光施設等に訪れた観光客数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
③	基本的方向	地域資源を活用した交流人口の増加

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	189万人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	117万人	113万人	D	おばま観光局、若狭おばま観光協会、県、JR、および大手旅行会等と連携して、地域資源を生かした周遊・滞在型観光の旅行商品を開発。また、食を看板とした観光の「目的地」として選ばれるよう、食を軸に、滞在型観光と組み合わせた旅行商品の開発や情報発信に取り組んでいる。	新幹線敦賀開業に向けて、引き続き、民間を主体とした事業の支援を行うとともに、観光事業者をはじめ、地域全体による敦賀開業時の「おもてなし」などの機運醸成が急務となっている。	
R4年度	189万人	120万人	D	小浜でしか食べられない食を観光の目的とする「食観光」を推進するため、市内飲食店や生産者を対象としたワークショップを開催するなど、民間事業者を中心とした受入れ体制の充実に向けた仕組みづくりに取り組んだ。	北陸新幹線敦賀開業が迫る中未だ観光事業者の気運の高まりが鈍いため、引き続き地域の気運醸成に取り組むとともに、小浜を訪れた観光客へのおもてなしの充実を図り、リピーター確保にも取り組む。	飲食店などの情報の共有について、色々な発信手段を使い、どのように広めるかを、もっと大事にしてほしい。 小浜市には山川登美子という偉人もいるので、日本中から短歌を一筆するイベントをしてはどうか。
R5年度	200万人	130万人	D	日本遺産や食を始めとする地域資源、観光資源を活用し、小浜らしい滞在型観光を創出するため、「おいしいOBAMA食の手帖」を発行し、「小浜でしか食べられない食」を提供する飲食店として20店舗を掲載した。	北陸新幹線敦賀開業を受け、受け入れ体制のさらなる充実に向けた取組みが重要となるため、今後は観光客の動向などを見極めながら、関係機関との連携による効率的な事業展開に取り組む。	小浜の食は十分なポテンシャルを持っていると思う。例えば「御食国」というキーワードを軸にするなど、ブランド化による価値の向上、認知度向上が必要と感じる。 嶺南市町が一体となって、ブランド化するなど広域的に取り組む必要もあるのでは。
R6年度	200万人	129万人	D	「おいしいOBAMA食の手帖」の活用、有名なシェフによるファミツアーの実施。 北陸新幹線敦賀開業効果を生かすため、レンタカープランの実証事業、インバウンド対策の実施。	北陸新幹線敦賀開業を迎え、利便性が向上した北関東・甲信越エリアからの集客に注力するとともに、集客が少なかった若年層をターゲットとしたコンテンツの充実、客層の拡大を図っていく。	新幹線が来ることによって観光客が増えるというイメージがあった。敦賀は増えたということだが、そこから小浜に足をのぼすイメージがわからない。インバウンドについては、統計が取れているのかという事は気になるが、近年、外国人の小グループの観光客がかなり増えてきているという印象はある。ただ、どういう交通手段で観光地まで来ているのか、どのルートを使ってきたのか等、どういうアクセスをしているのかについて足跡を追えたりすると、面白い展開に繋がると思う。
R7年度 (目標値)	204万人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	観光消費額（観光客による宿泊費、交通費、土産代、入場料等の合計額）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
③	基本的方向	地域資源を活用した交流人口の増加

【指標達成状況】

年度	目 標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	109億円 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	70億円	89億円	D	宿泊者数を増やし、観光消費額を増加させるため、おばま観光局や市内の観光事業者が中心となり、施設の高付加価値や、特産品を活用したお土産物の開発(パッケージ含む)に取り組んでいる。	観光の「目的地」として選ばれるよう、宿泊施設や食の提供などの受け入れ体制の整備に加え、人材の育成が急務である。	
R4年度	109億円	89億円	D	おばま観光局が中心となり、道の駅若狭おばまのリニューアルや商品開発、市内の宿泊客の受入可能数(ベッド数)を拡大していくための新たな投資を行った。	市内におけるキャッシュポイントの拡大や客単価の向上に加え、宿泊プランや土産物を含む観光商品の高付加価値化を図っていく必要がある。	来ていただいたお客様をリピーターとして獲得することや、そのために情報発信するなど、お客様のニーズに応えるかが大事だと思う。若者のほとんどがカード決済をしており、キャッシュレス化の必要性を感じる。
R5年度	125億円	99億円	D	おばま観光局が中心となり、引き続き、道の駅若狭おばまの商品開発やインバウンド等に対応するため飲食店における翻訳アプリの導入支援等を行った。	北陸新幹線敦賀開業を受け、市内店舗におけるデジタルデバイス等を活用した消費喚起、利便性向上について更なる理解促進、並びに観光商品の高付加価値化の普及拡大が必要	観光消費額は昨年と比べ増えているが、一人当たりの額はどうか。観光交流人口から単純に消費額を割らせてもらうと、一人当たり7,600円の消費となるが、その額だと日帰りの観光客が多いと感じる。新幹線が開通して敦賀からの直行バスも走っていると思うが、そこから小浜にどうつながっていくのかという二次交通の所もフォローしていただきたい。
R6年度	126億円	95億円	D	おばま観光局が中心となり、引き続き、道の駅若狭おばまの商品開発や情報発信を行った。	市内店舗におけるデジタルデバイス等を活用した消費喚起、利便性向上について、引き続きさらなる理解促進および普及拡大が必要	小浜の観光地は飛び飛びにあり、周遊するのは難しい地形である。昔から言われているが、二次交通の課題があり、そこを踏み出していないと、自家用車頼みになってしまう。
R7年度 (目標値)	128億円					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	教育旅行受入者数（市内施設等における教育旅行受入者数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
③	基本的方向	地域資源を活用した交流人口の増加

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	5,935人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	2,200人	3,113人	D	ブルーパーク阿納や、御食国若狭おばま食文化館、小浜市水産業拠点施設（旧田島小学校）などの市内受入れ施設の充実に加え、若狭湾観光連盟と連携し、県の海浜自然センター等を活用した広域連携による教育旅行のプログラムの造成に取り組んでいる。	地域資源を活用した、新たな教育旅行プログラムの開発や、人材の育成・確保など受入れ体制を整備するとともに、これまでの中京圏に加え、関西圏や関東圏への情報発信が必要である。	
R4年度	5,900人	5,419人	D	長引くコロナ禍の影響下においても県内の教育旅行を受け入れるなど、リピーターの拡大にも積極的に取り組んでいる。	現状では受入れ可能人数に限界が生じているため、体験メニューの充実とともに受入れ地域等の拡大が急務である。	
R5年度	6,300人	5,185人	D	現在は受入体制や受入人数も通常に戻っており、ブルーパーク阿納や、御食国若狭おばま食文化館を中心し、リピーターの拡大および新規の受入れに取り組んでいる。	今後、目標を達成するため受け入れ先のエリアの拡大や体験メニューの拡充が必要である。	新たな体験の場の開発が必要と思うが、現在の施設の受入人数も限界にきているという見解もあり、数値を見ていると6,000人くらいが限界かなと思う。受入拡大に向けては、行政が応援し、地域でお手伝いしないと地元だけでは厳しい状況だと思う。
R6年度	6,600人	5,365人	D	ブルーパーク阿納の体験、食文化館の若狭塗の体験の充実、リピーターの拡大および新たな体験メニューの開発に取り組んでいる。	ブルーパーク阿納の受入れ数を拡大するには、受入体制の関係から限界があるため、新たな体験メニューの開発が必要。	
R7年度 (目標値)	7,000人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

KPI	国際交流関係イベントへの参加者数（市内の国際交流関係グループが実施するイベント等への参加者数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
③	基本的方向	地域資源を活用した交流人口の増加

【指標達成状況】

年度	目標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	1,641人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	800人	603人	D	歴史的な物語を活かした国際交流・都市間交流を推進。国際交流のつどい、西安・慶州とのWEB交流を実施。	新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、徐々にでも相互交流が図れるよう、関係団体等と調整する。	
R4年度	1,200人	1,183人	D	歴史的な物語を活かした国際交流・都市間交流を推進。西安とのWEB交流を実施。	社会情勢を勘案しながら、少しずつ通常通りの交流に移行できるように関係団体と協力・調整する。	
R5年度	1,600人	1,198人	D	国際交流七夕のつどいと REINAN 国際交流のつどいの再開 5年振りに日本語ボランティア入門講座が開催されるなど、市内における国際交流活動は再開されている。	関係団体と協力して、年々変化する社会情勢に合わせた交流方法や、新たな取り組みについて検討していく	
R6年度	1,900人	1,915人	A	食文化館にて REINAN 国際交流のつどいの開催。 定期的に日本語教室、日本語ボランティア入門講座の開催。	関係団体と協力して、年々変化する社会情勢に合わせた適切な交流方法や取り組みを検討。韓国慶州市との交流を予定。	
R7年度 (目標値)	2,200人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	自主防災組織の結成団体数（自主防災組織の登録団体総数）	
3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
①	基本的方向	安全・安心な暮らしの確保

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	112団体 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	120団体	120団体	A	自主防災組織未結成区への働きかけとして、出前講座や防災士の会と連携した事業（研修会等）の実施。 自主防災組織の設立に係る経費等への補助。	自主防災組織の結成・登録を促進させるため、出前講座等による啓発を行う。防災士の会との関係性を構築し、地域の防災活動を支援する。	120団体いずれもが活動を実施しているのだろうか。休眠状態あるいは解散状態のところはないか。
R4年度	130団体	121団体	B	自主防災組織の結成率の低い地区の区長会に出向く等、組織結成に向けた働きかけを継続。 自主防災組織の設立に係る経費等への補助。	自主防災組織の結成・登録を促進させるため、出前講座等による啓発を行う。防災士の会との関係性を構築し、地域の防災活動を支援する。災害時の連携を進めていくため地区単位での組織の結成を推進する。	
R5年度	140団体	134団体	B	自主防災組織の結成率の低い地区の区長会に出向く等、組織結成に向けた働きかけを継続。 自主防災組織の設立に係る経費等への補助。災害時の地域防災力を向上させるため、地区での防災訓練の実施を推進。	自主防災組織の結成・登録を促進させるため、イベント、研修会、出前講座等を通じて啓発を行う。防災マップの作成団体数を増加させるため、研修会や出前講座等で周知を行うとともに、作成事例を活用した横展開を進める。	
R6年度	147団体	136団体	B	自主防災組織の結成率の低い地区に勧奨通知を发出、区長会に出向く等、組織結成に向けた働きかけを継続。	自主防災組織の結成・登録を促進させるため、イベント、研修会、出前講座等を通じて啓発を行う。	自主防災組織の結成について、行政から未結成の区に対してアプローチをされているという話があったが、防災士の会の立場で自主防災組織の活性化についてお手伝いさせていただきたい。約130区の自主防災組織が立ち上がっているが機能していない区が多い。自主防災組織の活性化に向けた働きかけを行政とより連携して、前に進めていきたい。
R7年度 (目標値)	147団体					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	地域防災マップの作成団体数（地域防災マップを作成した自主防災組織数）	
3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
①	基本的方向	安全・安心な暮らしの確保

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	0 団体 (R 元年度)	—	—	—	—
R 3 年度	5 団体	3 団体	B	「地域で作ろう！わがまち防災マップ等作成支援事業」を実施し、自主防災組織による地域防災マップの作成を推進。	防災マップの作成件数を増加させるため、自主防災組織への啓発活動を行う。	R 7 目標値との開きが大きくて、今のままでは到底達成できるとは思えないが、何かでこ入れ策は考えているのか。防災意識向上を狙いとした、マイハザードマップやマイタイムラインの作成などをセットにしたワークショップなどをやるべきと思うがどうか。
R 4 年度	1 0 団体	1 0 団体	A	「地域で作ろう！わがまち防災マップ等作成支援事業」を継続して実施し、未作成団体へのマップ作成を推進。	防災マップの作成件数を増加させるために自主防災組織への啓発活動を行う。また、作成事例を活用した横展開を行い、地域での防災意識の向上を図ることで防災マップ作成につなげる。	
R 5 年度	1 5 団体	2 0 団体	A	「地域で作ろう！わがまち防災マップ等作成支援事業」を継続し、未作成団体へのマップ作成について訓練や研修会等を通じて積極的に周知。	防災マップの作成団体数を増加させるため、研修会や出前講座等で周知を行うとともに、作成事例を活用した横展開を行い、地域住民の自助・共助の意識の向上を図ることで防災マップ作成につなげる。	
R 6 年度	3 0 団体	3 7 団体	A	「地域で作ろう！わがまち防災マップ等作成支援事業」を継続し、未作成団体へのマップ作成について訓練や研修会等を通じて積極的に周知。	防災マップの作成団体数を増加させるため、研修会や出前講座等で周知を行うとともに、作成事例を活用した横展開を進める。	
R 7 年度 (目標値)	5 0 団体					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	防災メール登録者数（小浜市の防災メールへの登録者数）	
3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
①	基本的方向	安全・安心な暮らしの確保

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	1,392人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	1,500人	1,592人	A	区への周知や広報おばまでのQRコードの掲載（毎月）、出前講座等を通じて登録の呼びかけを実施。	登録者数を増加させるため、講演会や研修会等の参加者や関係団体等へ周知を行う。	10年ほど前から運用していると思うが、登録者数が少ない。人口比にしても少ない。小学校の入学時や各種会合の機会に周知すれば伸びるのではないかと。台風やクマなど情報を分けて、使い勝手がよいようにできないだろうか。サイトの文字が小さく、登録へのハードルが高いように感じた。LINEの方が登録しやすいので検討してはどうか。
R4年度	1,600人	1,755人	A	区への周知や広報おばまでのQRコードの掲載（毎月）、出前講座を通じた周知に加え、講演会や研修会等の参加者、関係団体等への登録の呼びかけを実施。	登録者数を増加させるため、担当課だけでなく、発信する情報に関連する課からも、研修会や各種会合等を通じた普及啓発を図る。	
R5年度	1,700人	1,972人	A	区への周知や広報おばまでのQRコードの掲載（毎月）、出前講座を通じた周知に加え、講演会や研修会等の参加者、関係団体等への登録の呼びかけを実施。	登録者数を増加させるため、引き続き、担当課だけでなく、発信する情報に関連する課からも、研修会や各種会合等を通じた普及啓発を図る。	福井県警のアプリの「ふくいポリス」もダウンロードしており、そちらでは子どものスマホの犯罪や不審者の情報等の様々な情報が入る。個人的には、ふくいポリスの方が小浜市の防災メールより良く見るといふ事もあり、可能ならば、ふくいポリス上で市町の情報も併せて載せていただけると良いと思う。
R6年度	1,800人	2,160人	A	区への周知や広報おばまでのQRコードの掲載（毎月）、出前講座を通じた周知に加え、講演会や研修会等の参加者、関係団体等への登録の呼びかけを実施。	登録者数を増加させるため、引き続き、防災訓練や研修会等を通じた普及啓発を図る。	公式ラインを活用した情報発信を計画しているという話があったが、安全性は担保できているか。情報の漏洩や、セキュリティの脆弱性の部分について、行政としてどう考えているか。
R7年度 (目標値)	1,900人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】	K P I	ふれあいサロン設置区数（高齢者等を対象とした交流サロンを設置している行政区数）	
	3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
	②	基本的方向	心身ともに健康で、いきがいのある生活の実現

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	114区 (R2年度)	—	—	—	—
R3年度	114区	114区	C	コロナ禍でも可能な方法を模索しながら、各種事業を実施。その中で、知識の普及啓発、健康行動の実践支援、人のつながりを促す活動支援を行っている。	コロナ感染症と共生の方向で、健康の保持増進に欠かせない人との交流や社会参加を促す活動が、安全に実施できるよう支援が必要。	設置区数がこれだけ多ければ、もう数ではなく質をK P I とすべきではないか。たとえば年間サロン開催数とか、利用者満足度など。高齢になりながらも、地域社会において自分の役割を果たして、生き生きと活躍していることを表す指標とするべき。サロンを実施するにあたり、リーダーの人に負担がかかっているのではないか。広がっていかない一因だと思う。
R4年度	114区	114区	C	一般介護予防事業、地域介護予防活動支援事業、認知症関連事業、生活支援体制整備事業、フレイル予防事業の効果的な実施。 新しく子育て応援課、市民福祉課と連携して高齢者の保険事業と介護予防の一体的事業を実施。	感染症対策の中で希薄した人との交流や社会参加の機会を再構築し、集う機会の再開や開催回数、参加人数の増加、交流を促進する内容の実施に向けた支援が必要。	休眠状態のサロンや、サロンを辞めた地域へも支援をお願いしたい。サロンに行きたいのに行けないという方もいると思うので、辞めたサロンの再支援が必要かと思う。
R5年度	115区	115区	A	一般介護予防事業、地域介護予防活動支援事業、認知症関連事業、生活支援体制整備事業、フレイル予防事業の効果的な実施、高齢者の保険事業と介護予防の一体的事業を実施。	コロナ感染後に中断している会場もあるため再開できるよう支援が必要。(新規に開始した会場が1か所、再開ができた会場が3か所あった。)	ふれあいサロン設置区数について、サロンの主催者も高齢化しており、活動を休止している所も出てきていると思うが、どのようなフォローをしているか。 ふれあいサロンの運営については、民生委員が中心となることが多いが、民生委員の任期がきれる3年後に引継ぐ人がいないということから休止となる場合が多いと聞く。
R6年度	116区	116区	A	各種事業の充実と効果的な実施 サロンの再開、職域のサポーター養成	サロン参加者の高齢化、サロンリーダー不足のなかで、サロン地区の新規開拓、また休止地区が再開できるよう支援が必要。	令和3年から実施回数が大幅に上がってきているのは嬉しく思っている。しかし、全体的に男性の参加者は少ない。一方で最近、参加者の中で認知症の方が出てきているというのがすごく気になっている。資金が潤沢であれば、色んな活動を実施でき、刺激になって、また来ていただける方が増えるのではないかと思うが、乏しい資金で運営しているため、いつも同じ場所で同じ内容になってしまう。
R7年度 (目標値)	117区					

※評価欄の記号 A…目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B…目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C…基準値と数値が同一（停滞）／D…基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	市民提案事業件数（市民および団体が主体となった企画提案・実施事業の件数）	
3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
③	基本的方向	市民一人ひとりが活躍する住み心地の良い地域づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	9件 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	9件	6件	D	「いいとこ小浜づくり協働推進事業」により、地域の課題解決につながるまちづくり事業の提案を募集。審査を経て事業を採択、実施。	事業の周知を図り、さらなる協働の担い手の発掘に努める。	
R4年度	10件	6件	D	「いいとこ小浜づくり協働推進事業」により、地域の課題解決につながるまちづくり事業の提案を募集。審査を経て事業を採択、実施。	市民提案事業に新たなコースを設立し、申請の勧奨を図る。	
R5年度	10件	8件	D	これまでの「いいとこ小浜づくり協働推進事業」に加え、今年度より、提案をしやすい新コースを導入したことで申請件数が増加した。	新コースも含めた更なる制度の周知等により申請件数の増加を目指す。	
R6年度	11件	9件	C	小規模な事業を対象とした、まちづくりはじめの一步コースを導入したことで申請件数が増加した。また、次年度に向けて市民提案制度の改定を行った。	より多くの団体が実践できるよう、予算の拡充および事業のしくみを検討する。	
R7年度 (目標値)	12件					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）